

序

本シリーズ『藤本研修会 Standard Textbook』の出版にあたり、私が歯内療法学分野を担当させていただくことを非常に光栄であると感じている。また、ある種の緊張感も同時に感じずにはられない。それには理由がある。

出版までの経緯を紐解けば、私が歯学部を卒業して間もなく臨床の厳しさを目の当たりにし、数々の講演会、中・長期的なコースなどに参加し始めたころに話はさかのぼる。当時のどの講演会もそれなりに学ぶものはあったが、臨床の幹となる原則的な知識や術式、その生物学的背景までを系統立てて学べる勉強会はほぼ皆無であり、それらのほとんどはメーカーの販促としかなりえない、もしくは演者の経験に基づいた、その演者にしか同じ結果が期待できないであろうと思える内容のものばかりであった。半ば諦めて、「自分も経験を積んでいく以外に自信を持った治療などできるようなにはならないのであろう」と考え始めていた時に、インディアナ大学の補綴科大学院を修了され、その後にフロリダ大学補綴科にて教鞭をとられた藤本順平先生が主宰される1年間の補綴プログラムを受講させていただく機会を得、私の考えが間違っていたことに気づかされた。それは、「北米の臨床プログラムでは、生物学的にも時間的にも非常に合理的で無駄のない教育を受けることができる」ということであった。

このことに興味を持った私は、「是が非でも北米の大学院プログラムにて訓練を受けたい」と考えるようになり、卒後11年後に無事、ペンシルバニア大学歯内療学科大学院への入学が許されることになった。そこでの教育で確認できたことは、やはり藤本順平先生に学んだとおり、「北米の大学院は臨床専門医を養成するプログラムであり、卒業したての歯科医師であろうと、カリキュラムにそって訓練を行えばプログラム修了時にはある一定の専門医レベルに到達でき、逆にいかに経験を積んだ歯科医師であっても、それと同様のカリキュラムを通過しなければ決してその到達点には達し得ない」ということであった。

日本に帰国した際に、専門医養成の是非について某大学の教授と話をすることがあった。その時いただいたご意見は「日本に専門医は必要なし」とのことであった。私はどうしてもその意見に同意できず、自身で専門医養成のプログラムを開始することとした。現在、私は日本国民が専門医にしかできないレベルの歯内療法を必要としていることを実感・確信し、自分の考えが間違っていなかったことに誇りに感じている。私が今このように感じられているのはまさに藤本順平先生との出会いと教えによるものであり、恩師の哲学のもとにシリーズ化されるこのテキストの一端を任されることを、この上ない栄誉であると感じているわけである。

このテキストが臨床力を上げたいと感じている先生方の参考になれば幸いである。

2017年9月
石井 宏